

大学と地域の協働による取組に助成金を交付します！

2007年度 大学地域連携モデル 創造支援事業

■大学地域連携モデル創造支援事業の趣旨・目的

京都市では「大学のまち・わくわく京都推進計画」に基づき、2004年度から大学と地域との連携による取組に助成金を交付する「大学地域連携モデル創造支援事業」を実施してきました。この事業は、大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材の育成などを、地域にとっては大学の研究成果等による課題解決などを促進すること及びこの取組を各区基本計画にある個性を生かした魅力ある地域づくり事業と関連付けることで、各区基本計画の推進に役立てるとともに、事業成果を広く市民に周知することにより、大学と地域との連携をより促進することを目的とします。

■2006年度の事業結果

1. 大学地域連携モデル創造支援事業の募集について

2006年5月2日～6月4日にかけて、本事業の支援対象となる取組を募集しました。

その結果17件の申請があり、下表の8件(10事業)に助成金を支給しました。



採択後の認証式にて

番号	取組名	行政区	申請団体	申請概要	協力団体等
1	七夕まつり IN 上賀茂神社	北区	京都産業大学 市川貢ゼミ 「京の輪 プロジェクト」	子どもたちが運営する縁日の企画等により、上賀茂神社の七夕まつりを学生と地域住民が協力して盛り上げ、まつりを継続させるための基盤づくりを進めるとともに、地域の活性化を図る。	大宮賀茂界わいまちづくり会議、 上賀茂神社、 京都商工会議所洛北支部、 生活環境作り21・NPOフォーラム、 二葉葵友の会
2	地域連携フィールドワーク(1) でまちなじむ	上京区	立命館大学 産業社会学部 乾ゼミ	イベントへの参加や地域のフリーペーパー発行等を通じて、学生を中心とするワンルームマンション住民の地域への関心を高めるとともに、地域住民との交流を図り、まちづくりの輪を広げる。	でまち倶楽部、 出町商店街振興組合、 京極歴史探偵団、fmGIG、 京都市北部に市民ラジオを！実行委員会
	地域連携フィールドワーク(2) わがまち☆吉祥院	南区		「安心・安全まち歩き」や「ふれあいジャンボリー」等のイベントを通じて、既成の地域団体の枠を超えた新たな住民ネットワーク(「吉祥院ファンクラブ(仮)」)の結成を提案)を形成し、既成の団体と協同でまちづくりを行う。	NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク、 吉祥院小学校おやじの会
	地域連携フィールドワーク(3) 梅津カーニバル	右京区		住民が文化活動を発表・共有する場を設けることで、地域住民に新たな交流を生み出し、地域への愛着を醸成してコミュニティの強化を図る。	梅津まちづくり委員会、 梅津自治会連合会および各種団体
3	生ごみコンポストによる都市型コミュニティモデルづくり	左京区	京都府立大学 人間環境学部 食事学研究室	地域コミュニティづくりを目指して、生ごみの減量化と資源としての活用に向けた実践プログラムを作成し、小学生による生ごみを利用した京野菜づくりや、地域における生ごみ減量化やコンポストづくり等の事業を行う。	京都府立大学生生活協同組合、 京都市立葵小学校
4	市民合意型の美しい都心界隈の景観ルールづくり	中京区	立命館大学 産業社会学部 石本ゼミ 姉小路班	美しい都心界隈の景観を維持継承するため、建築協定の見直しに向けて、現協定の検証、アンケート調査、見直し案の作成等の取組を行う。他の建築協定地区においてもモデルとなる取組を目指す。	姉小路界隈を考える会、 NPO法人都心界隈まちづくりネット、 姉小路界隈地区街なみ環境整備協議会
5	「緑」の交流	東山区	京都女子大学 現代社会学部 依田ゼミ	空き家の増加に象徴される地域の魅力低下に対処するため、地域の空いた空間を「地区の坪庭」と位置づけ、デジタルイメージを利用した写真の展示を行って地域の方の意見を求め、町並み提案を行う。	清水自治会連合会
6	人づくり・町づくりプロジェクトー 地域住民主体の京都駅周辺地域活性化計画	下京区	龍谷大学 京都駅周辺地域活性化 総合調査チーム	アンケート調査や児童の作品展を通じて、東西両本願寺周辺に形成された2つの門前町を、地域住民を主体にした1つの町に変貌させるとともに、幅広い世代の地域の住民及び事業者が、まちづくりに積極的に関心を持つきっかけを作る。	京都市立植柳小学校、 西六条協賛会、西本願寺、 開明社、京都府仏具協同組合
7	祇園祭綾傘鉾を もりあげる京都学 フィールドワーク	下京区	佛教大学 八木研究室 (有志学生)	鉾町の住民減少や高齢化の問題に際して、綾傘鉾保存会の運営に学生が全面的に参加することで、住民から生きた知識を学び、その成果を情報発信するため、日・英・中・韓の各国語のパンフレットを作成する。	祇園祭綾傘鉾保存会
8	愛宕古道街道灯し	右京区	京都嵯峨芸術大学 環境デザイン研究室	学生と地域住民が共に祭り(愛宕古道街道灯し)をつくりあげていくことを通じて、歴史・文化の理解や世代を超えた交流を深め、地域の活性化・智恵の共有を目指す。	京都市立北嵯峨高校、京都市立嵯峨中学校、京都市立嵐山小学校、 京都市立嵯峨小学校、京都市立広沢小学校、テイスビスセンター桂川園

2. 採択した取組の紹介

(1) セタまつり IN 上賀茂神社

【取組内容】

京都産業大学と地域との交流イベント「サタデージャンボリー」への参加、地域融合をテーマとした学術シンポジウムの開催、セタまつりでのものづくり教室・子ども縁日・みこし担ぎの実施など。

【取組の成果など】

- ① 同じ大宮・賀茂地域にありながら交流が乏しかった上賀茂神社、上賀茂・大宮・柊野地区、京都産業大学を、「京の輪プロジェクト」が軸となりつなぎ合わせることができた。
- ② 今まで一堂に会する機会のなかった上賀茂・大宮・柊野地区及び京都産業大学の4つの団体が、みこしの制作を実現するために、学術シンポジウムにおいて意見交換を行う機会を設けることができた。
- ③ 地域の会議への積極的な参加や、上賀茂神社への訪問を通じて、地域の方々に「京の輪プロジェクト」の存在や意気込みを感じてもらうことができた。



(2) わがまち☆吉祥院

【取組内容】

吉祥院で一番大きなお祭りであるジャンボリーでのブース企画、吉祥院小学校おやじの会及びNPO法人「ふれあい吉祥院ネットワーク」と共同での「教えて！聞かせて！吉祥院☆みんなでガリバーマップ作り」企画の実施など。

【取組の成果など】

- ① 昔遊びを通じて、大人が子ども達と一緒に楽しんでもらえたことから、世代間交流が図れた。
- ② PTAへの呼びかけ、小学校へのビラ配布などを通して、「吉祥院ファンクラブ(仮)」を印象付けることができた。また、子どもをきっかけにしていけることが「吉祥院ファンクラブ(仮)」の実現の足がかりになることが明確になったため、今後子どもを中心に子どもを持つ親を巻き込むという観点から活動を行っていくことを改めて確認した。
- ③ 子どもの安心安全に関心はあるが、必ずしもまちづくりには関心がなかった方々が参加し、ガリバーマップを作成することにより、地域にはまだ知らない所がたくさんある事を発見してもらえた。ひいては吉祥院について改めて考えるきっかけを作ることができた。
- ④ 地域女性会の方が参加して昔話を語ってもらうことで、マンションなどに新たに引っ越してきた新規住民(例えば小さな子どもを持つ親)と地域の方との世代間交流を図ることができた。
- ⑤ 親が、子どもがどこでどんな遊びをしているかを把握することができ、安心してもらえた。同時に危険な面も明らかになった。
- ⑥ 吉祥院のことを理解することで、地域に対する愛着がより一層わいたように見受けられた。



(2) 地域連携フィールドワーク

① でまちなじむ

【取組内容】

地域の魅力や情報を若者目線で伝えるフリーペーパー「でまちなじむ」の発行、協働による「でまちなじむ実行委員会」として「でまっが作り」「似顔絵コーナー」「出町キング」等の交流事業の企画など。

【取組の成果など】

- ① [ゼミ生以外の学生・若者の巻き込み] これまでまったく地域と交流のなかったワンルームマンション住民が、フリーペーパー作りへの興味や「出町が好きだから」という理由により取組に参加した。この活動を通して、「地域活動」といった固い組織に縛られずに、取材や地域行事に参加することで、自然に地域との交流が生まれ、新たな魅力発見や、地域での居場所ができること、フリーペーパー作りなど、それぞれに様々なやりがいを発見し、出町をより深く知り、好きになってもらうことができた。
- ② [地域情報と魅力の発信・再発見] 設置したフリーペーパーがなくなるのが予想以上に早く、手配りしていたときも、通行人の方から声をかけられることも多く、多くの人が地域の情報を求め、興味を持っていることがわかった。また、そのような人々に対して、より濃い情報を伝えることができた。また、取材で紹介した店舗から、「フリーペーパーを見た人が来てくれる」という声も聞くことができた。
- ③ [地域住民への刺激] 商店街や地域からは、「外部からの視点として参考になった」という意見が聞かれ、ワンルームマンション住民の側だけでなく、地域側にとっても、新たな刺激となる相互効果があった。



(3) 梅津カーニバル

【取組内容】

「梅津文化フェスティバル」の一企画である「梅津カーニバル」における、企画・交渉・広報・実施運営・DVDの作成など。

【取組の成果など】

- ① これまで地域活動を表立って行っていなかった方々が、今までにない試みである大きなイベントを企画することで、地域活動を行うポジションを主体的に築き、また、それをまちづくり委員会など周囲の環境が認めてくれるようになった。同時に、学生の意見も多く聞いてくれるようになった。
- ② 住民全体として前向きな姿勢が見られるようになった。当日、多くの参加者から「次回も楽しみ」といった声が挙がったことから、事業を継続する必要性を感じ、年中行事にしようとする動きも見られた。
- ③ イベントに焦点を当てると、予想は下回ったものの、元々ターゲットにしていた若い世代が、今までのイベント以上に集まっていた。



(3) 生ごみコンポストによる都市型コミュニティモデルづくり

【取組内容】

割箸を回収して製炭化したものを利用した水質浄化実験の実施、小学生への総合学習「地球にいいことはじめよう」の開催、家庭ごみの分別回収と生ごみの堆肥化、研究成果の学会等での発表など。

【取組の成果など】

- ①割箸を炭にしたものを利用することで、水質浄化、生ごみ消臭作用、野菜増産効果をもたらすことが分かった。
- ②「野菜の生産から食べるまでの体験学習」に参加した児童・保護者・小学校教諭へのアンケート調査を実施したが、その結果、学習を通じて食べ残しが減ったという効果があったことが分かった。
- ③収穫した野菜の一部は児童から地域の方へ贈り、デイサービスの宅配弁当の食材となったが、この「おすそわけ」に添えた児童の手紙や喫食者からの礼状が両者の心に感動をもたらし、小学校と地域のつながりがより強くなった。
- ④地域ぐるみで行なう取組である生ごみ分別と堆肥化事業においては、四季折々の野菜づくり、食と環境に関する勉強会、参加者一同での収穫祭などが開催され、交流の輪が広がった。



(4) 市民合意型の美しい都心界隈の景観ルールづくり

【取組内容】

都心界隈の新しい景観を考えるシンポジウムの開催、京都市の新たな景観政策への支持の表明、「姉小路界隈地区街なみ環境整備事業ニュース」の発行、「市民合意型の新たな景観ルールづくりに向けて」のアンケート調査の結果・分析など。

【取組の成果など】

- ①やや内容説明が不足していた京都市の新しい景観政策案の考え方と、建築協定の内容との関係について、建築協定者の理解を高めることができた。
- ②事業の一環として実施した京都市案への支持表明の行動は、以降の他組織における賛成表明の動きの引き金となった。
- ③建築協定の改訂時期を間近に迎えた松長町地区に対して、協定継続のPR効果が高く、建築物の用途規制の継続意向に対する関心が予想以上に高いことを確認することができた。
- ④新たな景観ルールづくりについて、第一段階としてのルールの情報共有が行われた。さらにこの流れを関係者に丁寧に情報提供していくことで、ルールの具体化の方向性が見えた。
- ⑤歴史と蓄積のある地域の市民活動で、節目における専門的な情報収集には大学や企業の情報力と分析力のサポートは必要であるが、特に今回は都市計画および建築の専門的な知識、ルールなどの提案と関係者の意向把握において、モデル事業の実施が大いに役立った。



(5) 「緑」の交流

【取組内容】

清水坂公園周辺住民の方へのインタビュー調査(公園の利用実態・ニーズ等について)、清水学区内の児童館・保育園への取材(子どもたちの現状・ニーズ把握等について)、「三世代交流」の先駆事例である施設3件への取材(取組内容等について)、「緑の交流」を元にした地域活性化案の発表ワークショップの開催、東山区役所でのパネル展示、大学生政策コンペへの参加など。

【取組の成果など】

- ①自治会館や公園が活用されていないことを客観的に分析することで、現状を理解してもらえた。
- ②「自治会館と公園を融合」し、交流を図るという画期的な目線を提案できた。
- ③テーマ「緑の交流」の中心である公園に対する具体的提案ができた。
- ④より提案を身近に感じてもらうために自治会館の建物の外観を提案し、具体像を描いてもらった。
- ⑤最も重要なこととして、新しい提案をすることで地域の人たちに、もっと自分の地域のことを考えてもらうことができた。



(6) 人づくり・町づくりプロジェクト —地域住民主体の京都駅周辺地域活性化計画

【取組内容】

西本願寺門前町を散策して絵の題材を収集し扇子の制作、絵画展と扇子展の開催、西本願寺や仏壇・仏具業者の現状調査の実施、龍谷大学オープンキャンパスにおける本事業の紹介、協力者等へ配布する報告書の作成など。

【取組の成果など】

- ①龍谷大学の学生延べ500名が、門前町の町づくりに参加した。
- ②植柳小学校児童延べ100名が参加した。
- ③高校生とその保護者等300名に、本事業を紹介した。
- ④絵画展を下京区基本計画推進事業の協賛事業として実施し、3日間の開催で、地元住民を中心に1,000~2,000名の来場者があった。アンケート調査を行い、102件の回答が得られた。
- ⑤西本願寺「ご正忌報恩講」事業の一環として扇子展を実施した。8日間の開催で、全国各地からの参拝者と地元住民を合わせて約5,000名の来場者があった。アンケート調査を行い、207件の回答を得た。
- ⑥新聞、テレビなど、マスコミに12回紹介された。



(7) 祇園祭綾傘鉾をもちあげる京都学フィールドワーク

【取組内容】

日・英・中・韓4ヶ国語による案内パンフレットの作成、祇園祭綾傘鉾運営参加、他の山鉾や祇園祭山鉾連合会が作成している外国語の案内やチラシについての調査、パンフレットの配布(国内外の観光客向け等)による広報活動の実施など。

【取組の成果など】

- ① 民俗学の本格的なフィールドワークが実施できた。
- ② 祇園祭(京都にある大規模祭礼)の裏方への体験参加ができた。
- ③ 祭への参加により感動の体験ができた。
- ④ 伝統文化、地域活性化に貢献できた。
- ⑤ パンフレットの制作過程において、多様な地域の留学生が関わりネイティブチェックを行ったことで、完成度の高いパンフレットが作成できた。



(8) 愛宕古道街道灯し

【取組内容】

行灯の制作(学生が中心の作成が200基、地域住民・観光客作成が500基)、嵯峨野に近い小・中・高等学校の児童・生徒とのワークショップ開催、ポスター・Tシャツ・手ぬぐいを利用した広報活動、瀬戸内寂聴氏による法話の開催など。

【取組の成果など】

- ① 祭りをつくるということは、同時に人と人とが関わる場をつくる事でもあり、「愛宕古道街道灯し」が、人や物との様々な出会いの場として機能した。
- ② 観光で来られた人々には、竹と和紙という、日本古来の材料で作られた素朴な灯での空間演出により、京都という地域性をより意識してもらえることとなった。
- ③ 竹と和紙という、昔からある材料を用いることで、お年寄りから子どもまで、共に行灯制作に関わることができ、世代を超えた知恵の共有が行われた。
- ④ 地元でとれたもので、地元の空間を演出する。このことが人それぞれに、地域への愛着というものを再認識するきっかけとなった。



2007年度大学地域連携モデル創造支援事業への応募について

2007年度事業の募集を下記のとおり行います。詳細については募集要項を参照の上、ご応募ください。

応募対象 応募にあたっては、申請事業の実施主体が次の条件に該当することが必要です。

◆下記のいずれかに該当する団体・グループであること。

- (財)大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の団体・グループ(学部、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル等)。
- 地域住民で構成される団体・グループ。

◆1年程度以上の活動実績・自己資金を有すること(申請事業自体は新規でも可)。

◆適正な経理処理・事業報告ができること。

対象事業 2007年度中に京都市内で実施される、次の要件に該当する事業を対象とします。ただし、政治活動・営利事業等を目的とするものは除きます。また、特に事業実施の当初から大学と地域との協働がなされ、かつ当該事業が地域活性化に貢献するものが望まれます。

◆大学又は地域団体等が実施する、大学と地域住民が連携・協働して取り組む事業で、各区基本計画にある個性を活かした魅力ある地域づくり事業と関連したもの。

例：保健・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術又はスポーツの振興、環境保全、地域安全等の様々な分野における調査研究、市民講座、イベントなど。

◆先進性、独自性を有し、他の地域のモデルとして応用、展開が期待されるもの。

◆継続性及び発展性が期待できるもの。

選考方法 選考委員会を設置し、応募書類を審査し選定します。

助成件数 5～10件

助成金額 1件につき概ね10～30万円の範囲で助成金を交付します(申請額を減額して交付することもあります)。

申請手順

- ① 区役所・支所、キャンパスプラザ京都、(財)大学コンソーシアム京都のホームページにおいて募集要項(申請書含む)を入手し、募集要件を確認してください。
- ② 申請しようとする事業について、各区役所における「各区基本計画」の担当課を訪問・面談のうえ、意見交換を行ってください(意見交換の内容を申請書に記載すること)。
- ③ 申請書に必要事項を記入し、申請書を【7部】用意の上、(財)大学コンソーシアム京都へ【郵送】にて提出してください(持参・メール等の提出は不可)。

注：複数の団体・グループが連携して助成対象事業に取り組む場合は、いずれかの団体・グループが代表して応募してください。

受付期間

2007年4月27日(金)～6月1日(金)(必着) [U R L http://www.consortium.or.jp/](http://www.consortium.or.jp/)

大学地域連携モデル創造支援事業の2006年度助成事業報告会及び2007年度募集説明会のお知らせ

大学と地域の連携のモデルケースとして採択された2006年度事業の報告会と2007年度の募集説明会を下記の通り開催します。大学と地域との連携実践に興味のある方、2007年度の応募に関心のある方をはじめ多くの皆様の参加をお待ちしています。

日時	2007年4月27日(金) 14時00分～16時00分
場所	キャンパスプラザ京都 2階ホール(京都市下京区西洞院通塩小路下る)
申込方法	下記(財)大学コンソーシアム京都まで、電話・FAX・メールのいずれかの方法でお申込ください。なお、FAX・メールの場合は標題または本文に「大学地域連携モデル創造支援事業報告会・説明会申込」と記載し、参加される方の「所属」「氏名」「連絡先」を明記してください。 注：この報告会・説明会への出欠は、2007年度の助成事業の選考には一切関係ありません。

●申込等一般のお問い合わせ先

財団法人 大学コンソーシアム京都リエゾン・オフィス(月曜休)
〒600-8216京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都
TEL 075-353-9100 FAX 075-353-9101 E-Mail: <liaison@consortium.or.jp>

●本事業の企画等へのお問い合わせ先

京都市総合企画局プロジェクト推進室 TEL 075-222-3103 FAX 075-213-0443



財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto